

NTT 東日本 東京武蔵野支店「ずっと続く、地域のミライのために」ナレーション原稿

NA1) 日本の食品ロス量は、年間約 523 万トン。すべての国民が、おにぎり一個分の食品を毎日捨てている計算になります。

NA2) 循環型社会を目指す調布市と、生ごみからエネルギーや肥料を生み出そうとする NTT 東日本グループが連携し、地域内の資源循環に取り組んでいます。

タイトル：「ずっと続く、地域のミライのために」

【先生の声】「今日のメニュー！トマトタンメン、パリパリサラダ！」

【児童の声】「いただきます！」

NA3) 調布市立深大寺小学校…この学校では、食べ残しをできるだけ少なくする取り組みを行っています。今日の献立は、トマトがたっぷり入ったタンメン。このトマト、どこで採れたかというと…

NA4) 調布市入間（いりま）町にある、NTTe-City Labo。ここではローカル 5G を使った最先端のハウス栽培が行われています。

NA5) 超高解像度カメラの映像による、遠隔からの栽培指導。担い手不足を解消し、「ずっと続く農業」の実現を目指します。

調布市生まれの真っ赤なトマト…まさに「地産地消」。

NA6) そして調理で余った野菜くずなどは、再び NTTe-CityLabo へ。

ここではメタン菌のはたらきによって野菜くずなどを発酵させ、液体肥料や再生可能エネルギーを生み出します。

NA7) 廃棄していた物をムダなく使い、役立つものに生まれ変わらせる…「エネルギー生産型資源循環」という、新たな試みです。

【調布市 森さんインタビュー】

「特にバイオガスプラントということで先進的な取り組みであると考えています。子供たちがいかに今回の取り組みを自分事として捉えてもらえるか、ということに一番配慮しました」

NA8) こうした取り組みを、地域の未来を支える若い世代に もっと広げたい…
そうした思いから私たちは、保育園から小中学校に至るまで、環境学習の機会を幅広く提供しています。

NA9) その中でも産学官の連携によって実現したのが、ドルトン東京学園の中学 1 年生を対象とした環境学習。私たちの取り組みに関心を持った京都大学の土井助教が、協力してくれることになりました。

NA10) 資源循環の仕組みを学ぶだけでなく、生徒自らが、液体肥料や再生可能エネルギーを生み出す…生徒たちの探求心を高める特別授業です。

NA11) 5 回に渡って行われた授業では、家庭科の調理実習で出された生ごみを発酵させ、メタンガスを生成。その燃焼実験で生徒たちは、燃え上がる青い炎に歓喜の表情を見せていました。

【ドルトン東京学園男子生徒インタビュー】

「新しくエネルギーをつくることも出来るし、肥料をつくることもできる…すごいな、と思いました」

NA12) 環境学習の締めくくりとして、生成された液体肥料をコマツナのプランターへ。すると種まきから 20 日ほどで、葉を大きく広げました。

NA13) これまで捨てていたものから役立つものを生み出し、資源を循環させる…地域の魅力とみんなの思い、そして ICT によって、循環型の未来が実現します